

『救い主の復活！』

'21/11/21

聖書箇所: マルコの福音書 16 章 9-20 節 (新約 p.103)

このマルコ伝を学び始めて2年弱…、ようやく、その学びも今日で最後となります。先週もお伝えしたように、このマルコ伝は、写本の研究から、元々の著者であるマルコが書いた部分は、先週に学んだ 8 節で終わってしまっています。しかし、その終わり方があまりにも唐突であるため、多くの聖書研究者たちは、本当は、9 節以降の部分があったのに、それが何らかの理由で失われてしまったのではないかと考える意見も多数あります。

これまた、先週もお話したように…、今日、私たちが学ぼうとしている 9-20 節の部分は、写本上の研究から、2世紀になってから付け加えられたことが“間違い”です。…実は、当教会の HP には、私たちが信じ理解している聖書の教理に関して、このように説明させてもらっています。<当教会は、神のことばが客観的、命題的啓示であり(I コリント 2:13; I テサロニケ 2:13)、全ての単語は逐語的に(神の)靈感を受け(II テモテ 3:16)、その原著(=元々書かれた文書)において、神の息吹によって書かれた、全く誤りのない、無謬のものであることを教える。>って…。

⇒ 皆さん、分かってくださいますか?…つまり、基本的に、元々の著者が書いたオリジナルのみことば…、それは、世界中でたった1つしかないわけでも、その1つにしか、神様の靈感を認めない! ということです。…と言いますのは、それ以外のものは、如何に精巧に書き写されたものであったとしても、それらは皆、写本であるがゆえに、間違いや問題が有り得るからです。

以上、かなり、厳しいことを申しましたが、ほとんどすべての福音派のキリスト教会では、これと同じような立場…、神学的理解に立っています。…でも、皆さん、どうか、心配しないでください! 確かに今、私たちが手にしているものは、聖書のある意味、写本であり…、もちろん、オリジナルの原本ではありません。…しかし、今、私たちが手にしている聖書のみことばは、私たちが信じられないようなほどの細心の注意や、神様からのお言葉であるという敬意を払って、受け継がれてきたものであって、99.9%、オリジナルの聖書と変わらないということが分かっています。

命題: イエス様が復活された時には、どのようなことがあったでしょう?

そこで、今日の礼拝では、マルコ 16:9-20 の部分から、あのイエス様が十字架の死から復活された後には、どんなことが起こったのか? という点について、一緒に学んでいきたいと思います。そうすることで、願わくは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、イエス様の復活を歴史的な事実として理解して下さって、そのイエス様のことを真の神、唯一の救い主として信じ受け入れて下さることです。そして、皆さんが、ますます、キリストに似た者へと変えられていくことで、神様の栄光が現わされていくことです。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、マルコ 16:9 以降をお開きください。

I・イエス・キリスト復活の 顕現 ! (9-14 節)

どうぞ、まずは、今回の聖書箇所の内、9-14 節の部分を見ていきましょう…。この箇所は、あのイエス様が復活されたお姿を現わされた…、と言うことを少々難しい言葉を使って、**イエス・キリスト復活の“顕現”!** という風に表現しています。「顕現」という言葉を辞書で引いてみると、「はっきりと姿を現すこと。はっきりとした形で現れること。」とあります。つまり、復活後のイエス様が、そのお姿を何人かの者たちに現わされた! ということです。…そこには、このように記されています。

9 さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマгдаラのマリヤにご自分を現された。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。

10 マリヤはイエスといっしょにいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行き、そのことを知らせた。
11 ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。
12 その後、彼らのうちのふたりがいなかのほうへ歩いていっており、イエスは別の姿でご自分を現された。
13 そこでこのふたりも、残りの人たちのところへ行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話も信じなかった。
14 しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いているところに現れて、彼らの不信仰とたかなな心をお責めになった。それは、彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったからである。

①マгдаラの マリヤ に対して!

まずは、ここ 9 節から順番に見ていきましょう。まず、最初に、この聖書箇所が教えてくれているのは、マгдаラの“マリヤ”に対して、イエス様は、その復活のお姿を見せてくださったということです。この部分にも、『**イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。**』という説明がされていますように、イエス様は、過去、このマгдаラのマリヤから、悪霊を追い出してくださいました。

ルカ伝 8 章には、このように記されています。ルカ 8:1-3、『**その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。2 また、悪霊や病気を直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマгдаラの女と呼ばれるマリヤ、3 自分の財産をもって彼らに仕えているヘロデの執事クエザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか大げいの女たちもいっしょであった。**』って…。

⇒ ここのみことばが教えてくれているように、マгдаラのマリヤには、過去、7つもの悪霊、あるいは、実際に7つと言うよりも、かなり、悪質な悪霊が憑りついていました。…それを、イエス様が追い出してくださいました! ということです。時々、映画などを見ると、このマгдаラのマリヤが以前、遊女などをしていたような描かれ方をしている場合がありますが、恐らく、それは、少し前のルカ 7 章に記されている『**罪深い女**』と混同されてあるか、あるいは、“単なる脚色”であって、聖書の教えではありません…。

さて! どうぞ、今度は、今日の聖書箇所の 10 節をご覧ください。そのマгдаラのマリヤは、イエス様の復活を、『**“イエスといっしょにいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところ”**』へ伝えに行った! とあります。…ここで問題になるのは、じゃあ、その『**“イエスといっしょにいた人たちが”**』というのが、具体的に言うと、誰のことを指しているのか? ということです。…恐らく、この文脈から判断して、それは弟子たちのことを指しています。「弟子たち」と言っても、12 人の弟子たちだけのことではなく…、もう少し、範囲の広い…、イエス様のことを信じ、つき従っていた者たちのことです。…と言いますのは、彼らこそ、イエス様の復活を1番に知らないといけない者たちであったからです。…でしょ!

そこで、まず、今日の聖書箇所の 9-11 節を見てみますと、まるで、ヨハネ 20 章に記されてあるような…、マгдаラのマリヤが、弟子のシモン・ペテロとヨハネに、イエス様のことを伝えた時のことが記されてある“ように”見えます。しかし、もしも、そうだとすると、ここに記されてあることと、ヨハネ伝に記されてあることは、若干の“違い”があります。…と言いますのは、この聖書箇所には、①まず、マгдаラのマリヤが、復活後のイエス様に会って、②それから、そのことを弟子たちに伝えた! と記されてあるからです。

しかし、ヨハネ 20 章のみことばを、簡単に要約させていただきますと…、天使から、イエス様の復活を聞かされたマリヤが、そのことをまず、①弟子のシモン・ペテロとヨハネなどに知らせに行きます。…この時点で、マリヤは、まだ復活後のイエス様に会ってはいません。…そして、②ペテロとヨハネとが、本当にイエス様の遺体が無くなっているかどうかを確認しに行きます。恐らく、その時も、マリヤは同行していたのでしょう。…そして、③しばらくして、ペテロとヨハネとは帰っていきます。しかし、マгдаラのマリヤは、弟子たちが

そこを去った後も、しばらく、そこに留まり続けます。ヨハネ伝を見ると、『マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかかめて墓の中をのぞき込んだ。』(ヨハネ 20:11)とあります。すると、そこに、④イエス様が現われて、マリヤと少しだけ話をしてくださったのです。

…ということから、今日の聖書箇所 9-11 節に記されてある内容は、マグダラのマリヤが、イエス様の復活を、弟子のペテロとヨハネに伝えた時のものでは“なくて”、それ以外の弟子たちの所へ知らせに行った時のものであろうと思われれます。…しかし、この聖書箇所が言わんとしてくれていることは、その時、そのニュースを聞いた弟子たちは、「復活したイエス様へ会った！ 私は、復活されたイエス様のお姿をよく見た！」というマリヤの言葉を、最初の内は信じようとしなかった、ということです。

②2人の 弟子たち に対して！

さて、その次…、今日の聖書箇所 12-13 節、特に、12 節に記されてある内容は、あの有名な「エマオ途上」での出来事だと思われれます。聖書では、ルカ伝 24 章に記されてあります。ルカ 24 章によりますと、この時、弟子の『クレオパ』という人物と、もう1人の弟子が、エマオという場所に向かって途中のこと、復活後のイエス様が彼らの前に現われて、聖書のみことばを説き明かしてくださった、ということが記されてあります。

実は、そのエマオ途上で復活後のイエス様へ会った弟子たちは、どうしたわけか、最初、自分たちが話している相手が、イエス様であるということに気づくことができませんでした。私から言わせれば、彼らは、“かなり”イエス様と話した後で、その話していた相手がイエス様であったと気づかされるわけです。…でも実は、それと同じようなことが、マグダラのマリヤにも起こっておりました。彼女もまた、復活後のイエス様へ会った時、すぐには、それがイエス様だとは気づかなかったのです。…そうでしたでしょ？

そういったことから、復活後のイエス様には、それまでとは違う…、何か“視覚的な変化”があったのかも知れませんが、あるいは、神様が、弟子たちやマリヤの目を、霊的な意味で、見えなくしておられたのかも知れませんが、…恐らくは、そういったことから、今日の聖書箇所の 12 節には、『…イエスは“別の姿”で自分を現された。』ということが記されてあるのだと思われれます。

しかし！…どうぞ、今日の聖書箇所 13 節に注目してみてください。…ここでも、その復活後のイエス様へ会った弟子たちの話を、『彼らはふたりの話も信じなかった。』と記されてあります。…何と、ここでも、「俺たちは、復活をされたイエス様に出会った！ イエス様の復活は事実だったのだ！」という弟子たちの証言を、その、同じ弟子たちであるはずの者たちが信じられなかった。いや、信じようとしなかった！ということが教えられてあります。

③ 11人 の弟子たちに対して！

そして、どうぞ、今度は、今日の聖書箇所 14 節に注目してみてください。…恐らく、ここで言われている「その 11 人」と言いますのは、イエス様のことを裏切って、自殺してしまったイスカリオテを除いた 11 人の弟子たちであろうと思われれます。…と言いますのは、彼ら 11 人こそ、ここ 14 節にあるように、イエス様の復活を予め聞いておきながら、それを信じるのができなかった者たちだからです。

マグダラのマリヤから復活を聞いた者たちも…、また、エマオ途上で復活後のイエス様と出会った弟子たちの話を聞いた者も…、そして、あの弟子たちも、最初は、イエス様の復活を信じるのができませんでした。…今日の聖書箇所では触れられてありませんが、ヨハネ 20 章を見ますと、イエス様は、初め、11 人の弟子たちの内、トマスだけが居ない時、そこに現われてくださいました。…しかし、その時、そこに居なかったトマスは、その他の弟子たちが「私たちは、復活後のイエス様を見た！」と言っても、なかなか、イエス様の復活を信じるのができませんでした。…そうですね？

そのように、イエス様の復活は、多くの人たちが信じられないような…、“特別な出来事”なのです！…それはそうじゃありません？…正直言って、私たちにしても、そうです。…イエス様の十字架や復活から、もう 2000 年も経った現代…、この聖書のみことばだけで、どうやって、私たちは、イエス様の復活ということを信じることができるのでしょうか？

どうぞ、皆さん。マタイ 11:25-27 のみことばをご覧くださいませるか？ここで、イエス様は、私たち人間の内、一体誰が真の神であられる、天の父なる神を知ることができるのか？ということをお話してくださっています。そこには、こうあります。『25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。26 そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。27 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、父のほかには、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者はありません。』って…。

⇒良いです？…ここでイエス様が祈りの内に教えてくださっていることは、天の父なる神様は、すべてのことを明らかにしておられるのではない！ということです。天の神様という御方は、みこころという御意志を持っておられて、そのみこころの内に、私も…、また、皆さんも、真の神様のことを知ることが許され、また、その神様のことを信じて救われることができたのです！…すべては、神様のみこころであり…、神様の御計画の内なのです！

だから、例えば、Ⅱテモテ 2 章には、こんなみことばが記されてあります。Ⅱテモテ 2:23-25、『23 愚かで、無知な思弁を避けなさい。それが争いのもとであることは、あなたが知っているとおります。24 主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、25 反対する人々を柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせてくださるでしょう。』

⇒皆さん、分かってくださいますか？…このみことばが、『神が…悔い改めの心を与えて“真理”を悟らせてくださる…』と教えてくれているように、信仰や悔い改めの心というものは、私たちが努力して勝ち取るものではありません！神が、私たちに悔い改めの心を与えてくださり…、私たちに真理を悟らせてくださるのです！…もちろん、そういったような側面と言うか、私たち人間の目から見た時、私たちが自分の意志やあるいは選択で、この神様のことを選り取ったかのように見えることもあることも事実ですが、でも！実は、そういったことの背後には、神様の導き…、神様の働きがあるのです！…でしょ！

だから、例えば、Ⅰコリント 12:3 には、『…聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。』ということが教えられてあるのです。…だから、私も、あなたも、また、誰であつても、救われたことを誇ることはできないのです！…と言いますのは、私たちが真の神様のことを知って、救われたのも、すべては、この神様の御業であり、神様のおかげであるからです。…そうでしょ！

だから、私たちは、自分たちの宣教を通して、たくさんの人たちが救われたからと言って勝ち誇ったり、あるいは、その逆に、ほとんど、人が救われなからと言って、落ち込んだりする必要は無いのです！…と言いますのは、人に真理を悟らせて、救ってくださったり、あるいは、その人々を変えていってくださるのは、神様の御業であるからです。…私たちに与えられている責任は、次のポイントでも見ていきますが、この神様のことを学び…、また、その神様のことを伝えていくことだけです！…そのような私たちの宣教を通して、何人の方たちが救われるか？また、どのように、変えられていくか？は、神様のみこころ次第です。…だから、私たちは、この神様に祈りつつ…、この神様のみこころに沿った宣教を続けていけば良いのです！…そうじゃないでしょうか？

II・**宣教**の命令！(15-20 節)

どうぞ、今度は、マルコ伝の最後、15-20 節の部分をご覧ください。この部分では、**あのイエス様が、弟子たちに、「宣教」の命令を伝えられた！**ということが記されています。そこには、こうあります。

15 それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。

16 信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、

18 蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされません。」

19 主イエスは、彼らにこう話されて後、天に上げられて神の右の座に着かれた。

20 そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。

別の追加文[さて、女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間の人々にさっそく知らせた。その後、イエスご自身、彼らによって、きよく、朽ちることのない、永遠の救いのおとずれを、東の果てから、西の果てまで送り届けられた。]

●イエス様が教えてくださった、福音の **内容** ！

今読んだ 15 節にありましたように、イエス様は、弟子たちに、『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』ということ…つまり、宣教しなさい！ マタイ伝の言葉で言うなら、「弟子を作っていくなさい！」ということ命じられます。…繰り返し言いますと、私たちクリスチャンに与えられた責任は、福音を伝えることであって…、救われる人を起こすかどうか？ではありません。…人を救ってくださるのは、神様の御業であるからです。

そこで、イエス様は、私たちクリスチャンが伝えていくべき「福音の“内容”」に関して、16 節で、こう説明してくださっています。『信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。』って…。私たちの運命を大きく左右するものは、イエス様のことを信じるか否か？です。…そのような信仰の有無が、私たちの行く末を大きく左右します。…そのことは、聖書全体の教えと何ら矛盾しません。

しかし、皆さんに注目してほしいのは、その前半…、『信じてバプテスマを受ける者は…』という言い方です。…どうぞ、皆さん、マタイ伝の平行記事を思い出してみてください。マタイ 28:18-20 には、こうあります。『18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』

⇒私たちは救われるための唯一の方法は何でした？…「イエス様を信じる信仰」だけでしょ？…また、聖書の様々なみことばでは、それを「悔い改め」と表現している場合もあります。しかし、ここマタイ 28 章には、信仰も、悔い改めという表現も使われてありません。その代わりに、『バプテスマ』という言葉がここでは使われてあります。簡単に言いますと、ここマタイ 28 章で教えられてある内容は、イエス様を信じる信仰とほとんど同義です。単なる行ないではありません！…と言いますのは、ここで言われている『子』と

いうのは、明らかに、「子なるイエス・キリスト」を指すからです。ここでは、父と、子と、聖霊とが同格で表現されています。つまり、『父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授ける』、(≡)受けるということは、「イエス様のことを、天地創造をなされた真唯一の神様と同格であると認める！」という信仰告白と同じなのです。バプテスマと言うのは、「単なる、水に浸かる行為」ではなくて、そういった信仰告白を公にするものなのです。

●救われた者たちに現われる **特徴** ！

さて、イエス様は、ここ 17 節以降で、イエス様を信じ救われた者たちに現れる“特徴”について、5つ教えてくださっています。それらは、①イエス様の御名によって悪霊を追い出すということ、②新しいことばを語るということ、③蛇をもつかむことができる、④たとい毒を飲んでも決して害を受けない、⑤病人に手を置けば、その病人は癒されるということです。

①イエス様の御名によって悪霊を追い出す

まず、1 番目の「イエス様の御名によって悪霊を追い出す」ということに関して、使徒 19:11-12 には、こう記されています。『11 神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行われた。12 パウロの身に着けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。』

⇒このみことばが教えてくれているように、イエス様の弟子たちには、様々なしるしが伴いました。…その当時、神様は、そういった方法で彼らの宣教を助けてくださったのです。…じゃあ、なぜ、今の時代には、これと同じようなことが行なわれていないのか？…それは、この時代には、まだ、新約聖書がほとんど完成していなかったからです。…しかし、聖書のみことばが、すべて完成した現代にあって、天の神様は、そういったような「しるし」ではなくて、先に救われた私たちクリスチャンたちの生きた証しや日々の生き方を用いて、宣教のわざをなしてくださっています。

②新しいことばを語る

次に、2 番目の「新しいことばを語る」ということに関しては、使徒 2 章、あのペンテコステの日、聖霊なる神様が、大勢のクリスチャンたちに内住して下さるようになった時、大勢の者たちが、外国語で話し出した！ということが記されています。

また、使徒 16 章(9 節)や I コリント書の中には、何人かの弟子たちが当時、異言を語っていたということが記されています。私たちの教会では、聖書に出てくる異言と言いますのは、「人が恍惚状態になったような時に発する、意味不明のことを話すようなもの」ではなくて、外国語であると理解しています。

③蛇をもつかむことができる

3 つ目の「蛇をも掴むことができる」ということに関して、使徒 28:3-6 には、こんなことが記されています。『3 パウロがひとかかえの柴をたばねて火にくべると、熱気のために、一匹のまむしがはい出して来て、彼の手に取りついた。4 島の人々は、この生き物がパウロの手から下がっているのを見て、「この人はきっと人殺しだ。海からはのがれたが、正義の女神はこの人を生かしてはおかないのだ」と互いに話し合った。5 しかし、パウロは、その生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかった。6 島の人々は、彼が今にも、はれ上がって来るか、または、倒れて急死するだろうと待っていた。しかし、いくら待っても、彼に少しも変わった様子が見えないので、彼らは考えを変えて、「この人は神さまだ」と言い出した。』

⇒このように、まむしをも自由に操っているパウロの様子を見て、当時の人たちがパウロのことを見て、まるで、神様が何かのように勘違いした！というエピソードがあったようです。

④たとい毒を飲んでも決して害を受けない

4番目の、「たとい毒を飲んでも決して害を受けない」というしるしに関しては、申し訳ありません。私が調べた限りでは、新約聖書からは見つけることができませんでした。…この部分が書き記されているのは、2世紀になってからのことですから、ひょっとしたら、新約聖書の外典か何かか、そういったエピソードが記されてあるのかも知れません…。

⑤病人に手を置けば、その病人は癒される

さて、最後5番目のしるしは、「病人に手を置けば、その病人は癒される」というものです。これに関しては、例えば、使徒 3 章には、生まれつき足の悪かった 40 歳ほどの男が、ペテロによって癒された！という記事が載っています。また、使徒 19:12 や使徒 28:8 では、パウロを通して癒しがなされた！ということが記されてあります。

そういったことを教えてくださった後、イエス様は、天へ上げられて、神の右の座へと着かれました。そこで、弟子たちは、イエス様の教え通り、『出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた』わけです。このように、天の神様は、イエス様を信じて救われた者たちを用いて、実に、様々なことを通して、神様の証しをなして下さることによって、その宣教を助けてくださいました。…そこで、どうぞ、20 節の真ん中辺りに注目してみてください。そこには、何とあります？⇒『主は彼らとともに働き…』とありますでしょ？先程見た、①イエス様の御名によって悪霊を追い出すということ、②新しいことばを語るということ、③蛇をもつかむことができる、④たとい毒を飲んでも決して害を受けない、⑤病人に手を置けば、その病人は癒されるということなど…、どれも皆、ペテロやパウロが偉大であったから、そのような不思議なわざができたのではありません！…そうでしょ！

どれもこれも皆、天の神様が、みこころの内に、彼らのことを助け…、偉大な働きをなして、ペテロやパウロたちと共に働いてくださったのです！…確かに今、ここに記されてあるような、新しい言葉を語ったり、瞬間的な癒しの御業をなしたり、というようなことはできないでしょう…。でも、今も、天の神様は、主なるイエス様を信じて救われた私や皆さんを通して、一緒に働いて、主の証しをなして、救われる人たちを起こしてくださっています！…現に、今の時代にあっても、そういったような超自然的な奇蹟が起こらなくても、神様は救われる人たちを何人も与えてくださっているじゃないですか！…でしょ？

<励ましの言葉>

先程も言いましたように、私たちに与えられた責任は、人を救いなさい！ということではありません。…それは、天の神様がなして下さる御働きです。その神様が、私や皆さんに託された働きと言うか、その務めは、この福音のメッセージを、私たちの語る言葉や行ないでもって、証ししていきなさい！伝えていきなさい！ということです。

今、皆さんに与えられている大きな選択肢は、このイエス様を信じるか否か？あるいは、皆さんに与えられた人生を、このイエス様に従って生きていこうとするかどうか？このイエス様の救いを…、この福音のメッセージを伝えていこうとするかどうか？です。実際、今日の聖書箇所も、そういったことを私たちに訴えてくれていると思います。聖書が教えてくれる、この福音のメッセージは、私のことを変え…、また、クリスチャンの皆さんのことも大きく変えてくださいました。

どうか、まだ、このイエス様のことを信じて、救われておられない皆さん。願わくは、このイエス様を信じて、1日も早く、神様によって変えられてください！天の神様は偉大です！…この聖書のみことばが教えてくれている真の神様は、たった1週間で、この地球を含む全宇宙を造り…、今も、それらを規則正しく維

持してくださっています！また、この神様は、神の子であられるイエス様を、処女マリヤから生まれさせ…、私たちの罪の身代わりとして、あの十字架にかけて、罪の贖いを完成してくださいました。また、この神様は、あのイエス様のことも、十字架の死からよみがえらせてくださいました。この御方からすれば、いかなる病気や死でさえも、脅威ではないのです！

この神様は、どんな罪でも、どんなに頑なな心でも変えられます。…しかし、そのためには、まず、あなた自身が心を開いて、真の神様であるイエス様のことを信じ受け入れる必要があります。どうか、1日も早く、このイエス様のことを信じ救われる者となってください！そうして、この神様によって変えられてください！

また、クリスチャンの皆さん。天の神様が皆さんに期待しておられることも、先程と、そう大差ありません。

天の神様は、皆さんがイエス様を信じて、すべてをお委ねして、この神様のことを証ししていくこと…、また、この御方への感謝をもって、忠実に歩んでいかれることです。果たして、皆さんは今、何か、神様に責められるようなことはありません？…それを今、告白する必要はありません。どうか、そういった問題を悔い改めて、天の神様に告白して、清めてもらってください。そうする時に、皆さんは、ますます、キリストに似た者へと変えられて、ますます、この神様の栄光のために用いられていくでしょう。…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。